

授業科目 がん治療看護学

【担当教員名】 渋谷優子 栗原弥生	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

がんと治療に伴う看護の特徴を理解し、がん患者と基本的看護とがんの予防・早期発見活動の重要性を理解する。

がん治療・看護に伴う倫理的課題を理解し、がん患者の症状の変化に応じた長期化する特徴を十分理解し、継続的に患者のQOLを維持・向上を目指すアプローチの必要性を理解する。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

1. がんの特性と患者の治療に伴う看護を理解する。
2. がん患者の理解とQOLのアプローチを理解する。
3. がん予防・早期発見活動の必要性を理解する。
4. がん治療として方法による作用、副作用と倫理的課題を理解する。
5. がん患者・家族の治療に伴う援助の必要性を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	がんの特性と患者の治療・看護の理解 1) がんの動向 2) 病態の特殊性 3) がん医療及び治療の特殊性 4) 心理的・社会的特徴 5) がん治療におけるチームアプローチ	1	講義、演習 渋谷
2	がん患者の基本的看護	2	講義 渋谷
3	がん患者とQOL	2	講義 渋谷
4	がん看護における倫理的課題	4	講義 渋谷
5	がん予防・早期発見活動	3	講義 栗原
6, 7	がん治療に伴う看護 1) 手術療法の患者の看護 2) 化学療法の患者の看護 3) 放射線療法の患者の看護 4) がん患者・家族の治療に伴う援助 レポート課題 「がん患者のQOLにおける構成概念の4つの要素の意味を考察」 * QOLの構成概念の4要素 ①日常生活における作業能力 ②社会・人間関係を維持する能力 ③心理状態 ④身体的快・不快の程度	4, 5	講義 栗原

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	必要時 資料を提示する			
参考書	E がん患者の看護 監修 氏家幸子 広川書店 がんの統計'06 財団法人がん研究振興財団 国民衛生の動向 2006年 厚生統計協会			
その他の資料				

【評価方法】

出席、レポート、定期試験で評価する

出席 10% レポート評価 30%

定期試験 60%

【履修上の留意点】